



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Yasushige UEOKA, et al.

GAU: 2821

SERIAL NO: 09/698,053

EXAMINER: WIMER, MICHAEL C

FILED: October 30, 2000

FOR: ANTENNA FORMED FROM A PLURALITY OF STACKED BASES

REQUEST FOR PRIORITY

COMMISSIONER FOR PATENTS
ALEXANDRIA, VIRGINIA 22313

SIR:

- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Application Serial Number _____, filed _____, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §120.
- ☐ Full benefit of the filing date(s) of U.S. Provisional Application(s) is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119(e):
Application No. _____ Date Filed _____
- ☒ Applicants claim any right to priority from any earlier filed applications to which they may be entitled pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119, as noted below.

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicants claim as priority:

<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NUMBER</u>	<u>MONTH/DAY/YEAR</u>
Japan	11-310352	October 29, 1999
Japan	2000-259878	August 29, 2000

Certified copies of the corresponding Convention Application(s)

- ☒ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee
- ☐ were filed in prior application Serial No. _____ filed _____
- ☐ were submitted to the International Bureau in PCT Application Number _____
Receipt of the certified copies by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.
- ☐ (A) Application Serial No.(s) were filed in prior application Serial No. _____ filed _____; and
- ☐ (B) Application Serial No.(s) _____
☐ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
MAIER & NEUSTADT, P.C.

Marvin J. Spivak

Registration No. 24,913

Joseph A. Scafetta, Jr.
Registration No. 26,803

Customer Number

22850

Tel. (703) 413-3000
Fax. (703) 413-2220
(OSMMN 05/03)



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 1 9 9 9 年 1 0 月 2 9 日
Date of Application:

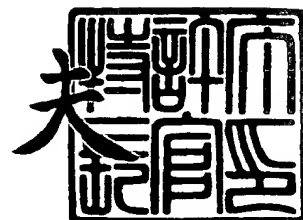
出 願 番 号 平成 1 1 年 特 許 願 第 3 1 0 3 5 2 号
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 1 9 9 9 - 3 1 0 3 5 2]

出 願 人 三菱マテリアル株式会社
Applicant(s): 株式会社エフ・イー・シー

2 0 0 4 年 6 月 2 1 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 J80456A1

【提出日】 平成11年10月29日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H01Q 17/00

【発明の名称】 携帯通信機器用アンテナエレメント

【請求項の数】 8

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県大宮市北袋町 1 丁目 2 9 7 番地 三菱マテリアル株式会社 総合研究所内

【氏名】 植岡 康茂

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県大宮市北袋町 1 丁目 2 9 7 番地 三菱マテリアル株式会社 総合研究所内

【氏名】 横島 高雄

【発明者】

【住所又は居所】 石川県金沢市打木町東 1 4 1 4 番地 株式会社エフ・イー・シー内

【氏名】 杉村 詩朗

【特許出願人】

【識別番号】 000006264

【氏名又は名称】 三菱マテリアル株式会社

【特許出願人】

【識別番号】 595119486

【氏名又は名称】 株式会社エフ・イー・シー

【代理人】

【識別番号】 100064908

【弁理士】

【氏名又は名称】 志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】 100108578

【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】 100089037

【弁理士】

【氏名又は名称】 渡邊 隆

【選任した代理人】

【識別番号】 100101465

【弁理士】

【氏名又は名称】 青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】 100094400

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】 100106493

【弁理士】

【氏名又は名称】 松富 豊

【選任した代理人】

【識別番号】 100107836

【弁理士】

【氏名又は名称】 西 和哉

【選任した代理人】

【識別番号】 100108453

【弁理士】

【氏名又は名称】 村山 靖彦

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008707

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9704954

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 携帯通信機器用アンテナエレメント

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 厚み方向に積層された複数の基板と、
これら基板にそれぞれ形成された導体パターンと、
前記複数の基板に形成された該導体パターンの間を互いに電氣的に接続する導体部とを備えて成り、
前記導体パターンによってインダクタンス成分及びキャパシタンス成分を形成することを特徴とした携帯通信機器用アンテナエレメント。

【請求項 2】 前記複数の基板に形成された導体パターンのうち、一の基板に形成された導体パターンと二の基板に形成された導体パターンとでキャパシタンス成分が形成され、
かつ、これら導体パターンのいずれか一方または双方がインダクタンス成分を形成し、
これらキャパシタンス成分とインダクタンス成分とが前記導体部により並列接続されていることを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信機器用アンテナエレメント。

【請求項 3】 前記導体パターンは、キャパシタンス用パターンと、インダクタンス用パターンとから成り、
前記複数の基板のうち、一の基板に一のインダクタンス用パターンが形成され、
該一の基板に隣接する二の基板に一方のキャパシタンス用パターンが形成され、
該二の基板に隣接する三の基板に前記一方のキャパシタンス用パターンと対向してキャパシタンス成分を形成する他方のキャパシタンス用パターンが形成され、
前記一のインダクタンスパターンと前記一及び二のキャパシタンス用パターンにより形成されるキャパシタンス成分とが前記導体部により並列接続されている

ことを特徴とする請求項 1 記載の携帯通信機器用アンテナエレメント。

【請求項 4】 前記複数の基板のうち、最も外側に位置する基板の表面に、外部に露出し、かつ平面視において他の基板に形成された導体パターンと重なるシールド用の導体パターンが形成されていることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか記載の携帯通信機器用アンテナエレメント。

【請求項 5】 前記最も外側に位置する基板の表面に外部に露出するように給電口が形成され、

該給電口と前記シールド用の導体パターンとが、他の電子部品に対する接続部とされていることを特徴とする請求項 4 記載の携帯通信機器用アンテナエレメント。

【請求項 6】 前記複数の基板には、アンテナ全体のインピーダンス値を調整するための調整用パターンが形成されていることを特徴とする請求項 4 又は 5 記載の携帯通信機器用アンテナエレメント。

【請求項 7】 前記導体部は、前記複数の基板の厚み方向に形成されるスルーホールからなることを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれかに記載の携帯通信機器用アンテナエレメント。

【請求項 8】 前記シールド用の導体パターン及び前記給電口を外部に露出させた状態で、前記複数の基板がカバーにより覆われていることを特徴とする請求項 5 又は 7 記載の携帯通信機器用アンテナエレメント。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電波を送信あるいは受信する機器、とりわけ携帯電話、ポケットベル、携帯用情報処理端末等の小形の通信機器に組み込むアンテナとして特に好適に使用することができる携帯通信機器用アンテナエレメントに関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

携帯通信端末を含め、電波を送信あるいは受信する機器に用いるアンテナは、機器のケースに付設される伸縮自在のモノポールアンテナが主流である。 また

、ケースの外部に短く突き出しているヘリカルアンテナも知られている。

【0 0 0 3】

【発明が解決しようとする課題】

かかる従来のアンテナは、例えばモノポールアンテナの場合、使用の都度長く引き伸ばす必要があるため操作が面倒であり破損しやすいという問題があった。

またヘリカルアンテナは、空芯コイルからなるアンテナエレメントを樹脂などのカバー材によって保護して構成されているから、外形が大きくなりがちであり、ケースから突出させて固定すると、全体の体裁がよくないという問題が避けられなかった。

【0 0 0 4】

この発明の目的は、かかる従来技術の問題に鑑み、アンテナの外形寸法を小形化し、携帯通信端末等を含む電波送受信体のケース内部に付設することによって、アンテナを引き伸ばす操作が不要になり、破損が生じ難くなると同時に全体の体裁を良好にし得る小形の携帯通信機器用アンテナエレメントを提供することにある。

【0 0 0 5】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 記載の発明は、厚み方向に積層された複数の基板と、これら基板にそれぞれ形成された導体パターンと、前記複数の基板に形成された該導体パターンの間を互いに電氣的に接続する導体部とを備えて成り、前記導体パターンによってインダクタンス成分及びキャパシタンス成分を形成することを特徴とする。

【0 0 0 6】

このような構成としたことによって、導体パターンによって形成されるインダクタンス成分及びキャパシタンス成分が、電波送受信に必要な共振系を構成して、アンテナとして機能する。

【0 0 0 7】

請求項 2 記載の発明は、前記複数の基板に形成された導体パターンのうち、一の基板に形成された導体パターンと二の基板に形成された導体パターンとでキャパシタンス成分が形成され、かつこれら導体パターンのいずれか一方または双方

がインダクタンス成分を形成し、これらキャパシタンス成分とインダクタンス成分とが並列接続されていることを特徴とする。

【0008】

このような構成としたことによって、これら導体パターンによって形成されるキャパシタンス成分とインダクタンス成分とが並列接続されて、電波送受信に必要な共振系を構成して、アンテナとして機能する。

【0009】

請求項3記載の発明は、前記導体パターンは、キャパシタンス用パターンと、インダクタンス用パターンとから成り、前記複数の基板のうち、一の基板に一のインダクタンス用パターンが形成され、該一の基板に隣接する二の基板に一方のキャパシタンス用パターンが形成され、該二の基板に隣接する三の基板に前記一方のキャパシタンス用パターンと対向してキャパシタンス成分を形成する他方のキャパシタンス用パターンが形成され、前記一のインダクタンスパターンと前記一及び二のキャパシタンス用パターンにより形成されるキャパシタンス成分とが前記導体部により並列接続されていることを特徴とする。

【0010】

このような構成としたことによって、これら導体パターンによって形成されるキャパシタンス成分とインダクタンス成分とが並列接続されて、電波送受信に必要な共振系を構成して、アンテナとして機能する。

【0011】

請求項4記載の発明は、前記複数の基板のうち、最も外側に位置する基板の表面に、外部に露出し、かつ平面視において他の基板に形成された導体パターンと重なるシールド用の導体パターンが形成されていることを特徴とする。

【0012】

このような構成としたことによって、シールド用の導体パターンにおいて電波が遮蔽され、電波を送信する際には、該導体パターン方向へは電波が放射されず、また、該導体パターン方向からの電磁波ノイズは遮断される。

【0013】

請求項5記載の発明は、前記最も外側に位置する基板の外部に露出した表面に

給電口が形成され、該給電口と前記シールド用の導体パターンとが、他の電子部品に対する接続部とされていることを特徴とする。

【0 0 1 4】

このような構成としたことによって、他の電子部品と接続されるべき部位、即ち給電口とシールド用導体パターンとが同一平面に存在することとなり、この面で電子部品に搭載することができる。

【0 0 1 5】

請求項 6 記載の発明は、前記複数の基板には、アンテナ全体のインピーダンス値を調整するための調整用パターンが形成されていることを特徴とする。

【0 0 1 6】

このような構成としたことによって、調整用パターンの形状を変更すれば、必要な周波数に応じて、アンテナ全体に任意のインピーダンス値を与えることができる。

【0 0 1 7】

請求項 7 記載の発明は、前記導体部は、前記複数の基板の厚み方向に形成されるスルーホールからなること特徴とする。

【0 0 1 8】

このような構成としたことによって、各導体パターンが平面視において一点で電氣的に接続されるような形状が実現できる。

【0 0 1 9】

請求項 8 記載の発明は、前記シールド用の導体パターン及び前記給電口を外部に露出させた状態で、前記複数の基板がカバーにより覆われていることを特徴とする。

【0 0 2 0】

【発明の実施の形態】

以下、発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

【0 0 2 1】

図 1、図 2 において、携帯通信機器用アンテナエレメント A は、厚み方向に積層された複数の基板 1 ～ 4 と、これら基板 1 ～ 4 にそれぞれ形成された導体パタ

ーン 5 ～ 9 と、該導体パターン 5 ～ 9 の間を互いに電氣的に接続する導体部 1 0 ～ 1 3 （スルーホール）とを主な構成要素として構成されている。

【 0 0 2 2 】

基板 1 ～ 4 は、基板表面上への金、銀等の貴金属による導体パターン 5 ～ 9 を印刷等により形成し、基板への穿孔が行われた後、順次積層して導電部材を孔に充填してスルーホールを形成し、焼成一体化して形成されたものである。

【 0 0 2 3 】

導体パターン 5 ～ 9 は、主としてキャパシタンス成分形成に寄与するキャパシタンス用パターン 6 a、7 a…と、主としてインダクタンス成分形成に寄与するインダクタンス用パターン 5 a…とから成っている。

【 0 0 2 4 】

基板 1 （一の基板）に形成された導体パターン 5 は、インダクタンス用パターンとして、基板 1 上に、両端に直線部 5 b を有する所定のピッチで配列されたジグザグ状導体（インダクタンス用パターン 5 a…）から形成されている。

【 0 0 2 5 】

基板 2 （二の基板）に形成された導体パターン 6 及び基板 3 （三の基板）に形成された導体パターン 7 は、基板 2、3 上に、一端に直線部を有する複数の長方形パターンなるキャパシタンス用パターン 6 a、7 a…を有して形成されている。これら導体パターン 6、7 のパターン 6 a と 7 a とは平面視において重なり合うよう配置されている。

【 0 0 2 6 】

導体パターン 8 は、キャパシタンス用パターン 8 a を有し、このパターン 8 a が、基板 4 上に単一の長方形パターンとして形成されている。

【 0 0 2 7 】

導体パターン 9 は、キャパシタンス用パターンとシールド用パターンとしての機能を兼ね備えたパターン 9 a を有し、電波送受信回路を構成するプリント基板に接続するための接続部として、最も外側に位置する基板 4 の外側に外部に露出した状態で形成されている。この場合、パターン 9 a は、平面視において、他の基板に形成された導体パターンと重なるように位置している。

【 0 0 2 8 】

導体パターン 6 のパターン 6 a と導体パターン 7 のパターン 7 a とは、パターン 5 a の両端にそれぞれ接続されている。

【 0 0 2 9 】

導体パターン 8 は、導体部 1 0 ～ 1 2 によって導体パターン 5 の一方の終端に接続されている。

【 0 0 3 0 】

導体パターン 9 は、導体部 1 0 ～ 1 3 によって導体パターン 5 の他方の終端に接続されている。

【 0 0 3 1 】

最も外側に位置する基板 4 の外側には、電波送受信回路を構成するプリント基板に接続するための接続部を構成する給電口 1 4 が形成されている。給電口 1 4 は、導体部 1 0 ～ 1 3 を介して導体パターン 5 に接続されている。上記の構成において、導体パターン 5 のパターン 5 b と、導体部 1 0 ～ 1 3 とは、調整用パターン 1 6 を構成している。

【 0 0 3 2 】

積層された基板 1 ～ 4 全体の外側には、図 2 に示すように、導体パターン 9 及び給電口 1 4 を外部に露出させた状態で、合成樹脂からなる保護カバー 1 5 が設けられている。

【 0 0 3 3 】

上記の携帯通信機器用アンテナエレメントによれば、導体パターン 5 のパターン 5 a、5 a…はインダクタンス成分を形成し、さらに導体パターン 6、7 の間にキャパシタンス成分を形成して、これらが電波送受信に必要な共振系としての並列共振回路を構成する。また、該並列共振回路が直列に連結されてその全長が電波の送受信体を形成するアレイ型のアンテナを構成している。この構成の下に、導体パターン 5 のパターン 5 a、5 a…の長さ、導体パターン 6 ～ 7 の直線部及び導体部 1 0 ～ 1 3 により与えられるインダクタンス値、導体パターン 6 ～ 9 のパターン 6 a、7 a の面積及び導体パターン間距離等により共振させる所定の周波数が設定されている。

【 0 0 3 4 】

上記のアンテナエレメントによれば、導体パターン 5 ～ 9 によって形成されるインダクタンス成分及びキャパシタンス成分が、電波送受信に必要な共振系を構成して、アンテナとして機能する。

【 0 0 3 5 】

また、導体パターン 5 のパターン 5 a は、ジグザグの辺の斜線方向に水平波成分、辺の交点に沿って垂直波成分を放射することができる。さらに、アンテナを同一平面で直角方向に異なる位置に形成することにより、水平偏波、垂直偏波の双方の電波をさらに良好に送受信することができる。

【 0 0 3 6 】

また、導体パターン 9 のパターン 9 a が電波を遮蔽するため、この方向への電波の送信が遮断され、これとは逆の方向でのアンテナの利得が向上し、導体パターン 9 がない場合に比べて送信距離を延ばす効果が得られる。同時に、電波送受信回路からのノイズも遮蔽するため、回路基板への直接搭載を可能にし、かつ搭載場所の自由な選択が可能となるため、電波送受信体のケース内部に付設する際有利である。

【 0 0 3 7 】

また、導体パターン 9 と給電口 1 4 が共に最も外側に位置する基板 4 の外側に露出する表面に形成され、この部分が接続部とされているので、この面で電波送受信回路を構成するプリント基板に、直接半田付け等によりアンテナを搭載することができ、電波送受信体のケース内部に付設する際場所を節約することができる。

【 0 0 3 8 】

また、導体パターン 5 の、給電口 1 4 が接続される位置から終端にかけての直線部、及び導体パターン 9 への導体部 1 0 ～ 1 3 が共にインダクタンス成分を形成し、アンテナ全体のインピーダンス値を調整することを可能にしている。従ってアンテナ全体と、接続される電波送受信回路系との間でのインピーダンス整合を可能にする効果がある。

【 0 0 3 9 】

また、導体部 1 0 ~ 1 3 は、基板 1 ~ 4 の厚み方向に形成されるスルーホールにより構成されているので、複数の導体パターンを接続する際場所を必要とせず、外形寸法を小形化するのに効果的である。この場合、基板に用いる材質として、セラミックの代りにガラスエポキシを用い、孔の部分に導体メッキを施してスルーホールとするのもよいが、ペーストを充填して焼成する方がアンテナのインピーダンスを下げる効果がある。

【 0 0 4 0 】

また、導体パターン 9 及び給電口 1 4 を外部に露出させた状態で、基板 1 ~ 4 がカバーにより覆われているため、該露出面を実装面として送信回路基板上に搭載することが可能である。搭載後は、導体パターンの酸化、あるいは外力による損傷による電波送受信への影響を極力排除する効果が得られる。

【 0 0 4 1 】

【発明の効果】

本発明は、以下に記載されるような効果を奏する。

【 0 0 4 2 】

本発明は、複数の基板を積層することで基板の間に形成されるキャパシタンス成分を共振系に用いることを特徴としたため、外形寸法を小形化して携帯通信端末等を含む電波送受信体のケース内部に付設することができ、アンテナを引き伸ばす操作が不要になり、破損が生じ難くなると同時に全体の体裁を良好にし得る小形の携帯通信機器用アンテナエレメントを提供することができる。とりわけ、従来のアンテナでは外形寸法の大きくならざるを得ない、V H F 帯や U H F 帯といった電波の波長の長い周波数領域で有用である。

【 0 0 4 3 】

さらに、複数の基板を積層すれば、形成される複数のキャパシタンス成分から、全長を同じに保ち複数の共振モードを得ることができる。

【 0 0 4 4 】

また、本発明は、前記複数の基板のうち、最も外側に位置する基板の表面に、外部に露出し、かつ平面視において他の基板に形成された導体パターンと重なるシールド用の導体パターンが形成されていることを特徴とするため、該導体パタ

ーン方向への電波の送信が遮断され、該導体パターンがない方向でのアンテナの利得が向上し、該導体パターンがない場合に比べ送信距離を延ばす効果が得られる。同時に、電波送受信回路からのノイズも遮蔽するため、回路基板への直接搭載を可能にし、かつ搭載場所の自由な選択が可能となるため、電波送受信体のケース内部に付設する際有利である。

【0045】

また、本発明によれば、最も外側に位置する基板の表面に給電口が形成され、該給電口と前記シールド用の導体パターンとが、他の電子部品に対する接続部とすることにより、該接続部を半田付け等により他の電子部品、例えば電波送受信回路を構成するプリント基板に接続することができ、電波送受信体のケース内部に付設する際場所の節約につながる。

【0046】

また、本発明によれば、前記複数の基板には、アンテナ全体のインピーダンス値を調整するためのインダクタンス用パターンが形成されていることを特徴とするため、前記共振系と、これに接続される電波送受信回路系との間で、インピーダンス整合を可能にする効果がある。

【0047】

また、本発明によれば、前記導体部は、前記複数の基板の厚み方向に形成されるスルーホールとしたため、複数の導体パターンを接続する際場所を必要とせず、外形寸法を小形化するのに効果的である。

【0048】

また、本発明によれば、前記シールド用の導体パターン及び前記給電口を外部に露出させた状態で、前記複数の基板がカバーにより覆われていることを特徴とするため、該露出面を実装面として送信回路基板上に搭載することが可能である。搭載後は、導体パターンの酸化、あるいは外力による損傷による電波送受信への影響を極力排除する効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

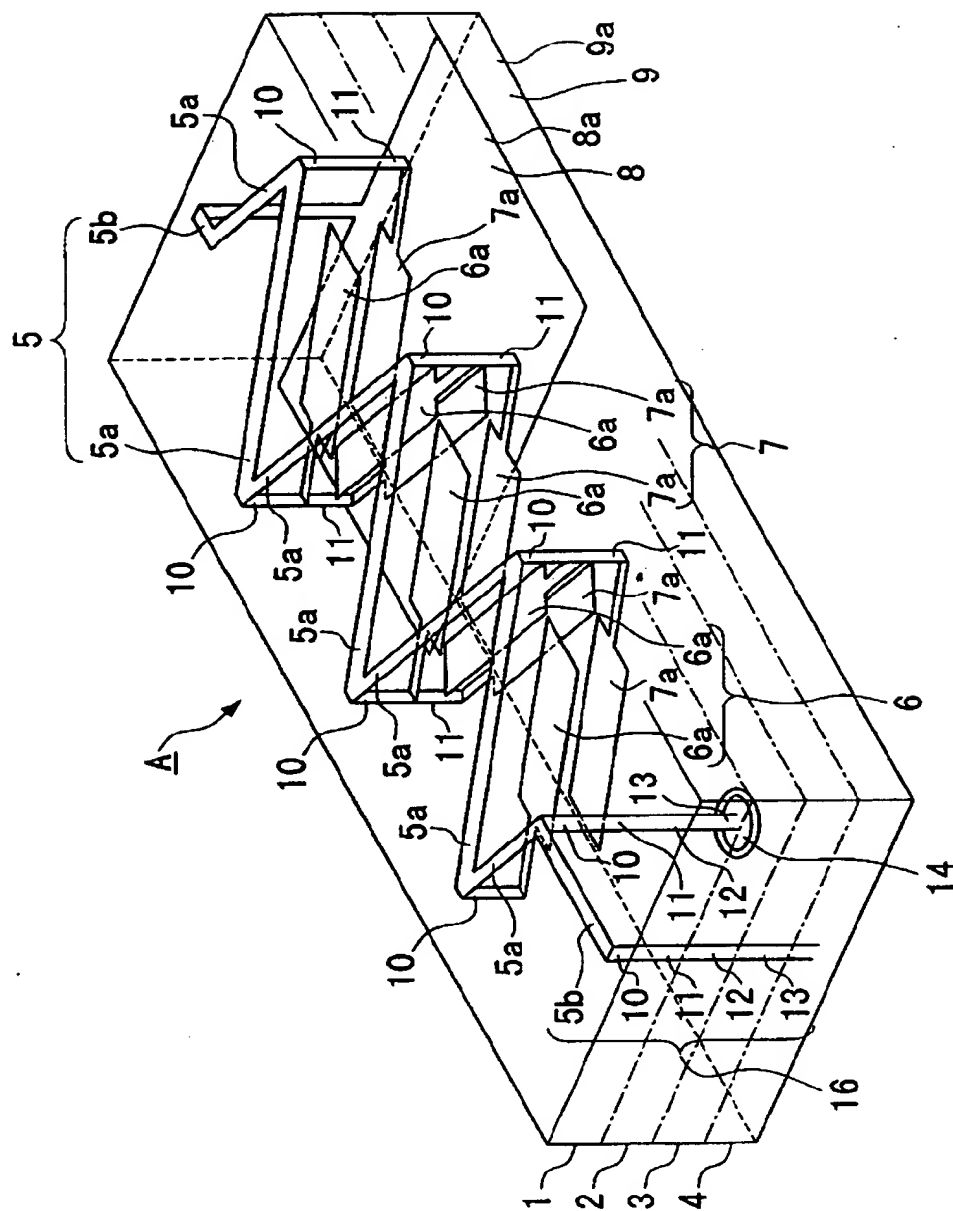
【図1】本発明による携帯通信機器用アンテナエレメントの構成を示す一部を省略して描いた斜視図

【図 2】同導体部の位置関係を略示した正面図**【符号の説明】**

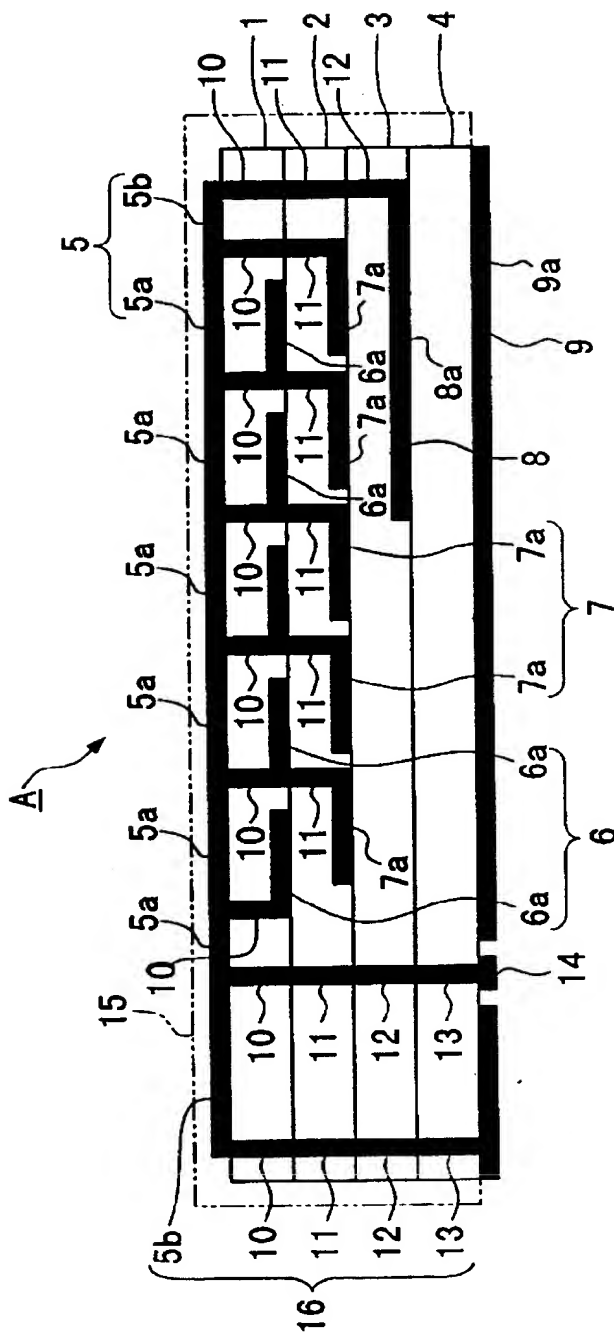
- 1 . . . 基板（一の基板）
- 2 . . . 基板（二の基板）
- 3 . . . 基板（三の基板）
- 4 . . . 基板
- 5 ～ 9 . . . 導体パターン
- 5 a、5 b . . . インダクタンス用パターン
- 6 a、7 a、8 a . . . キャパシタンス用パターン
- 9 a . . . パターン
- 1 0 ～ 1 3 . . . 導体部
- 1 4 . . . 給電口
- 1 5 . . . 保護カバー
- 1 6 . . . 調整用パターン

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 携帯通信端末等を含む電波送受信体のケース内部に付設する小形の携帯通信機器用アンテナエレメントを提供する。

【解決手段】 厚み方向に積層された複数の基板 1 ～ 4 と、これら基板 1 ～ 4 にそれぞれ形成された導体パターン 5 ～ 9 と、該導体パターン 5 ～ 9 の間を互いに電氣的に接続する導体部 1 0 ～ 1 3 とを備え、導体パターン 5 ～ 9 によってインダクタンス成分及びキャパシタンス成分を形成することを特徴とする。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	平成 11 年 特許願 第 310352 号
受付番号	59901065285
書類名	特許願
担当官	第七担当上席 0096
作成日	平成 11 年 11 月 2 日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000006264
【住所又は居所】	東京都千代田区大手町 1 丁目 5 番 1 号
【氏名又は名称】	三菱マテリアル株式会社

【特許出願人】

【識別番号】	595119486
【住所又は居所】	石川県金沢市打木町東 1 4 1 4 番地
【氏名又は名称】	株式会社エフ・イー・シー

【代理人】

申請人

【識別番号】	100064908
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 OR ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】	100108578
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 OR ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】	100089037
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 OR ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	渡邊 隆

【選任した代理人】

【識別番号】	100101465
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 OR ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	青山 正和

次頁有

認定・付加情報（続き）

【選任した代理人】

【識別番号】 100094400

【住所又は居所】 東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ
ル 志賀国際特許事務所

【氏名又は名称】 鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】 100106493

【住所又は居所】 東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ
ル 志賀国際特許事務所

【氏名又は名称】 松富 豊

【選任した代理人】

【識別番号】 100107836

【住所又は居所】 東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ
ル 志賀国際特許事務所

【氏名又は名称】 西 和哉

【選任した代理人】

【識別番号】 100108453

【住所又は居所】 東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ
ル 志賀国際特許事務所

【氏名又は名称】 村山 靖彦

次頁無

特願平 1 1 - 3 1 0 3 5 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 6 2 6 4]

1. 変更年月日	1 9 9 2 年 4 月 1 0 日
[変更理由]	住所変更
住 所	東京都千代田区大手町 1 丁目 5 番 1 号
氏 名	三菱マテリアル株式会社

特願平 1 1 - 3 1 0 3 5 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [5 9 5 1 1 9 4 8 6]

1. 変更年月日	1 9 9 8 年 3 月 1 8 日
[変更理由]	住所変更
住 所	石川県金沢市打木町東 1 4 1 4 番地
氏 名	株式会社エフ・イー・シー